

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8 月 2 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム だんらんこがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目 1 3 番地の 1 (電 話) 0123-35-4226		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目 3 北1条ビル 3 階		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】 ( 20年 7月 17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 8月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人 非常勤 1人 常勤換算	5.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
			(11~4月)20,000 円
敷 金	有 ( 円 ) ・ ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要 ( 7月 17日現在 )

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	2 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 87.4 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵み野病院・恵庭南病院・ユーアイ歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは閑静な新興住宅街に位置している。周りの住宅と調和した建物の内部は、広々と明るく和みのダイニングルームと入居者の個性や使い易さに配慮した居室はともに居心地良く暮らせる空間になっている。法人理念を具現化したホーム理念の「環境」とは、利用者を取り巻く地域を含むすべてとして、地域に開かれた双方向的な関係を強めている。同系列のデイサービスの空き時間に施設・設備を利用するなど、法人と連携した自主サービスと利用者本位の介護計画を中心にした介護保険サービスを充実させ、多様で柔軟な支援を行っている。職員のスキルアップ研修・個別ケア・生きることへの積極的な支援も特記すべき特徴であり、家族にとって安心度の高いホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの理念策定は、ホーム理念の「環境」とは、入居者を取り巻く生活環境のすべてであることを職員全員で確認し、地域密着型サービスを展開している。災害対策の地域住民の協力体制構築は、運営推進会議や町内会に働きかけ理解を得ており、近い将来の実現が期待できる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>一人ひとりの職員が評価意義を理解した上で全項目を評価し、管理者がまとめたものから「見落とした」内容を洗い出し、取り組みの具体策を立て確認した。その過程を通して質の確保・向上に活かしている。尚、自己・外部評価の結果は運営推進会議に報告しモニターを受けている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>18年7月に初開催し地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・家族代表に法人及びホーム代表が加わり隔月開催している。ホームから活動・実情や運営などについて報告され、質問・意見・要望・助言などをいただいている。会議の内容は職員全員への報告を通してサービスの向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームには意見箱を設置し、関係書類には、ホームの苦情・相談受付の窓口と公的機関を案内している。苦情処理要領により苦情の処理体制や手順を明確にしている。日常的には交換ノートを活用し、家族との意思の疎通を深め、話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、新年会やゴミ拾いを始め懇親会にも参加している。ホーム主催のだんらん祭りには手配りで案内し、ホームを公開するとともに地域住民との交流を深めている。地域ボランティアや小学生の来訪も多く、地域の人々との交流は盛んである。ホームは地域に開かれた運営を進めている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が介護に寄せる思いを集約し、法人理念を具現化しホーム理念を策定した。「～生活できる環境を作る」の「環境」とは、ホームの人的・物的環境に地域を含む生活環境のすべてとし、地域密着型サービスの展開に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勤務時の職員は理念を携帯し、日々の介護実践や申し送り時には常に理念に立ち帰り、理念の実践化を基にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事の新年会やゴミ拾いを始め懇親会にも参加している。ホーム主催だんらん祭りを手配りで案内し、ホームを公開し地域住民との交流を深めている。地域ボランティアや近隣小学生の来訪も多く、地域住民との交流は盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価意義を理解した上で全項目を評価し、管理者がまとめたものから見落とし内容の確認を行なった。外部評価の結果は職員全員で検討し改善に取り組み、質の確保・向上に活かしている。尚、いずれの評価も運営推進会議に報告しモニターを受けている。		

恵庭市 グループホーム だんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・家族代表に法人・ホーム代表がメンバーとなり18年に初開催し隔月開催している。ホームの実情や運営などを報告し、質問・意見・要望をいただいている。会議の内容は職員全員へ報告しサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催で年3回グループホーム連絡協議会が開催され、市担当者からの情報提供とホームの実情を伝える機会になっている。市担当者はホームの運営上の課題について同じ目線で考え話し合うなど、実態と課題の共有が図られ良好な関係が構築されている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々は、市内在住者は少ないが来訪の頻度は高く、その都度利用者の心身の状態や生活の様子・金銭出納状況を中心に報告している。定期的には月1回ホーム新聞やお便りを送付し、緊急時には電話で報告するなど、個別の対応を丁寧に行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入口には意見箱を設置し、関係書類にはホームの苦情相談窓口を案内している。苦情処理要領により苦情処理の体制と手順を明確にしている。日常的には、交換ノートを活用し、家族との意思疎通を深め、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・法人部長が中心に職員の悩みや相談をこまめに行なうとともに、介護職の「やりがい」や「目標」を持てるよう助言し、離職を最小限に抑え、サービスの継続性と利用者への影響の緩和に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定による職員の育成方針を下に研修機会が確保されている。法人内に委員会を設け、今日的課題を中心に講師を招き勉強会を行なうとともに、道グループホーム協議会主催の研修会を中心に道内外の研修会に出席している。研修後は報告会を通し職員全員が研修内容を共有し、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内9つのグループホームで、恵庭グループホームネットワークを組織し、全グループホームのレベルアップを目指す研修とともに、ホーム行事を中心に相互訪問し、交流・連携の取り組みが軌道に乗りつつある。市の担当職員からも積極的な参加を得ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り利用者の安心・納得の上での入居を目指し、家族の方々の協力を得て見学や日帰り体験を繰り返し、利用者の視点に立った個別の相談を行いながら本格的なサービスに移行している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、すべての利用者と均等なコミュニケーションを心掛け、利用者と同じ時間を過ごしている。利用者から生活の知恵や技を学ぶとともに、利用者の職員に対する思いやりや優しさに触れ、学びと感謝の関係性を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を考慮しつつ、日常会話・表情・仕草を始め、家族からの情報提供を得ながら、思いや暮らしの意向・希望について利用者一人ひとりの立場に立って把握に努め、職員全員が共有を図っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でモニタリング・カンファレンスを実施し、ケアマネージャーと担当者により現状と課題に即した内容と利用者・家族の意向を踏まえた利用者本位の介護計画を作成し、利用者・家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月の期間設定をしている。毎月3名ずつカンファレンスを実施し、現状に合うよう見直しを行なっている。介護計画とプラン実施表を連動させ、今後に向けた介護内容を日常的に検討している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人のディサービスセンターの空き時間を利用しての施設・設備の利用や行事などへの参加を始め、系列グループホームへの訪問・交流やかかりつけ医への送迎など、柔軟な支援を行なっている。また、利用者の希望により職員と一対一による個別外出支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度は協力医療機関の看護師が来訪し、健康の管理・相談を行なっている。利用者の多くはかかりつけ医による継続診療を受け、遠方よりの入居者は、相談の上で協力医療機関を利用している。かかりつけ医と協力医は情報提供書により連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、利用者・家族に対して重度化・終末期における対応について指針を下に説明、話し合いを通して同意を得るとともに、必要に応じて家族・医療機関と方針の統一を図っている。状況変化の度に話し合いを行ない、段階に応じた合意を得るとともに職員全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時や排泄時の見守りの際は、利用者が嫌がる言葉は職員全員が共有し、言葉に配慮するなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言動や対応に注意を払っている。記録など第三者への提供の場合は、目的と条件を明確に示し、同意書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな1日の流れはあるが、職員の都合を優先することなく、起床・就寝・食事など、利用者の思いや望みなどを大切に柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の一連の活動を大切にし、利用者の力を活かす場面作りに努めている。食事の献立は季節感のある食材を使い、彩りや盛り付けを工夫し、利用者と職員はともに食卓に着き、楽しい食事になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はなく、午後2時から利用者の希望に応じて自由に入浴ができるように支援している。入浴拒否者も多いが、入浴の使用や清潔な浴室に努め、利用者に応じた言葉掛けとタイミングを工夫し、入浴を勧めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や日常会話を始め家族からの情報を総合的にとらえ、趣味・特技や能力を踏まえた場面作りに努めている。利用者は畑作り・食事の一連活動・短歌・刺子など、多彩な楽しみごとを持ち、楽しく生活することへの支援を積極的に行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調を踏まえ、買物・散歩・日光浴など日常的な外出支援とともに、花見・紅葉・外食など行事としての外出支援にも取り組んでいる。車椅子を使用しセラピー犬を連れての散歩も行なっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は、錠のないケアの大切さを認識し、夜間帯は一般家庭同様に施錠しているが、日中帯は施錠することなく、利用者は職員の見守りの中で、菜園活動や日光浴などに自由に出入りしている。		



恵庭市 グループホーム だんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導と町内会・民生委員・市福祉課担当職員の参加の下に、年2回昼夜を想定し避難訓練を実施している。法人からの支援体制もできており、避難食品などを備蓄し、防災ズックなども用意し、消防用・救出用設備の点検も行なっている。	○	管理者は、地域住民と連携し、協力体制を構築することの必要性を認識しており、運営推進会議や町内会などに働きかけを行ない、理解を得ている。なお一層の取り組みの実現に期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士に、年2回食事内容を見ていただき、栄養摂取料は1500calを基準に利用者の嗜好や希望を取り入れ、栄養バランスのとれた食事を提供している。水分量は医師の指示の下、一人ひとりの対応をしている。いずれの摂取量も職員全員で共有し支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビング兼ダイニングルームを中心に玄関・浴室・トイレなどの共有空間と居室が使いやすく隣接している。衛生管理が行き届いたリビングの天窓からは、自然光が差し込み、風が走り、明るく和みの空間である。利用者の多才な作品を掲示し、季節感と生活感を取り入れた居心地のよい共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意向が大切にされ、家族の方々の協力を得ながら、豊かで個性的な居室作りを支援している。使い慣れた馴染みの家具や調度品を持ち込み、思いでの写真・自己作品を始め趣味の装飾など、利用者の好みに応じた安らぎの居室を作っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。